

特集

出前でたのしもう!

難病の子どもたちは、劇場などのエンターテインメント施設には出かけにくく、体験型のたのしみの機会に恵まれない問題があります。

しかし、最近、この“ワクワク”を届けてくれる出前型のエンターテインメントも増えています。

どのような“ワクワク”があるかを探してみましたので、このような出前を活用し、みんなで一緒にワクワクしましょう。



いのちの源・宇宙をすべての人に

一般社団法人星つむぎの村 高橋 真理子

星空は、地球上に生きる全生命にとっての共有の風景です。人々はおそらく、この地球に誕生したところからずっと星を見上げ、不思議に想い、好奇心をいだき、想像力を広げてきたのだらうと思います。それゆえ、星を見上げると、何か懐かしい気分になったり、ほっとしたり、希望を持ったりするのでしょう。だからこそ、ホンモノの星空をなかなか見られない人たちに星空を届けたい、という思いで、プラネタリウムをもって出かけています。難病ネットさんには、この活動をはじめた2014年からお世話になっており、この5年半で「病院がプラネタリウム」を体験された方の数は1万2000人ほどになっています。

先日、プラネタリウムをご覧になった医療的ケア児のお母さんから、こんな感想をいただきました。「私の息子は先日三歳の誕生日を迎えました。前を向いても向いても先が見えなくて、暗いトンネルはどこまでも続いているような気がして、息子が大きくなるのが怖くなって…嬉しいのに気持ちが落ち込んでしまったお誕生日でした。(中略) プラネタリウムで息子とねっ転がって星を見たら、勝手に涙が流れて止まらなくなりました。いろんな悩みやもやもやが小さな小さなことに思えてきて、そんなことより腕のなかの息子が大切でたまら

なくなり、息子の誕生日をやっと心から嬉しく思う気持ちが湧き上がってきたのです。おひつじ座の息子に、(おひつじは)金の毛皮で空を飛べるんだ、キミにはそんなチカラがあるんだよ、と、先生が言ってくださったことを、今日はずっとなんどもなんども思い出しては涙しています。」

私たちが届けるプラネタリウムは、星空のみならず、その奥に広がる宇宙を旅します。そこで必ず語ることは、私たちの体の材料はすべて星がつくってくれた、ということ。そして、私たちは、宇宙がはじまった138億年という連綿と続く時間軸の果てとしての「今」、そして、広大な宇宙の点にも満たない地球の、ちりにも満たない小さな





「ここ」に、みんなとともに生きているということです。言葉をかえれば「生きていることの不思議」。

上記の感想をいただいてから1週間後、なんと、そのご家族が遠路はるばる、星つむぎの村が拠点にしている八ヶ岳南麓での星イベントにいらっしゃいました。それまで旅行なんて絶対ムリ、と思っていたのに、プラネタリウムをみて「どうしても星をみたい」という気持ちが、彼らを動かしたのでした。

「はじめての家族旅行」に男の子のお姉ちゃんも大喜びだった、と。お母さんから再びいただいたメールに私たちはみな涙しました。「座れない、立てない、歩けない…食べれない、喋れない…息子にはできないことがたくさんあります。そのできないことの圧倒的な多さにとすると押しつぶされそうになりますが、でも本当は、「できないこと」と「できること」の間には、「一緒にやればできること」「支えがあればできること」もたくさんたくさんあるのだと、日々の生活のなかで少しずつ感じるようになりました。」

星つむぎの村は、届ける活動をする一方で、八ヶ岳の

美しい星空を見に来てもらうための活動もしています。「あおぞら共和国」もとても近く、やはり星空が素晴らしいです。プラネタリウムを呼んでいただけてみなさんのところに出前していきますが、一方、「あおぞら共和国」にお越しの際にも、ぜひ私たちを呼んでください。実際の星空のガイドも、プラネもお楽しみいただけます。ぜひともに一緒に星を見上げましょう!



星つむぎの村のプラネタリウム

<http://hoshitsumugi.main.jp/planetarium>